

「排水対策の徹底」と「適正な播種量」で目標栽植本数を確保！

1 ほ場準備

- ・額縁排水溝や心土破碎の排水対策を徹底する。
- ・必ず石灰質資材を施用し、発酵ケイフンを積極的に施用する。
- ・ヘアリーベッチ作付けほ場では、大豆播種の7日前頃を目安にフレールモアで細断する。

＜土づくり資材の施用量＞ (10a 当り)

土壌pH6.0～6.5に矯正		有機物の施用	
資材名	施用量	資材名	施用量
石灰質資材	100kg以上	発酵ケイフン	100～150kg

2 播種作業 ～播種量、基肥量、播種深度を確認！～

(1) 作業日程等

- ・青立ち株の発生が多い場合は、6月1日以降に播種する。
- ・土壌が十分に乾いた条件で、耕起から播種の一連の作業は1日で実施する。

(2) 播種量 (種子はクルーザーMAXXにより消毒済み)

- ・品種と播種時期に応じた播種量となるように、必ず事前に目皿とスプロケットを調整し、播種開始時には必ず落下粒数を確認する。
- ・青立ち株の発生が多い場合は、栽植本数の上限を目標に播種する。

＜播種量＞

※スプロケットの組合せは裏面参照

品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量			使用目皿
			1mあたり落下数	大粒の場合 (kg/10a)	中粒の場合 (kg/10a)	
エンレイ (えんれいのそら)	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	13～15粒	5.3～6.0	4.3～4.9	B-22
	6月中旬	16,000～18,000	15～16粒	6.0～6.8	4.9～5.5	
シュウレイ	6月上旬	12,000～15,000	11～14粒	4.9～6.1	/	B-33
	6月中旬	15,000～18,000	14～16粒	6.1～7.4		

※エンレイは大粒または中粒の種子が流通します。

※シュウレイの種子は、年によってはB-22でも使用できます。事前に目皿から落下するか確認してください。

(3) 基肥量

- ・単作、麦あとに応じて基肥量を調整する。
- ・発酵ケイフンを施用したほ場は、1～2割減肥する。
- ・青立ち株の発生が多い場合は、2～3割減肥する。

＜基肥量の目安＞

基肥名	10a当り施用量
BB基肥084	単作 30kg 麦あと 40kg
	※ヘアリーベッチを すき込んだ場合:0～15kg
LPs大豆専用	単作 25kg 麦あと 30kg

苗立ちが不安定、除草剤の効果が不足



(4) 播種作業

- ・トラクターの車速は「低速」、ロータリは「高速」とし、碎土率を高める。
- ・播種深度は3cm程度を目安とし、苗立ちの向上に努める。

(5) 播種後の排水対策

- ・播種後の溝や額縁排水溝を手直しするとともに、確実に排水口へ連結する。

3 除草剤散布

- ・播種後は速やかに、土壌が湿った状態で除草剤を散布する。

＜播種後の除草剤＞

薬剤名	10a当り散布量
ラクサー乳剤	400～600ml+水100L
プロールプラス乳剤	
ラクサー粒剤	4～8kg

4/1～5/31 春の農作業安全運動実施中！

【お問い合わせは JAいみず野営農指導課 TEL52-6805 高岡農林振興センター農業普及課射水班 TEL26-8478 まで】

【JAいみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp/>】